



サンパチエンスの花壇

一人の健康から地球の未来まで

# AKATSUKA グリーン通信

Green Communication

vol.170 2013.5月号

# 暑さに負けない元気な花！ サンパチエンス

近年の温暖化で夏がますます暑くなり、夏のガーデニングには苦労しますが、そんな中で暑さに負けず元気に咲き継けてくれるおすすめの花がサンパチエンスです。サンパチエンスは「ユニークニアインパチエンス」を元に作られた新しい種間雑種のですが、暑さに強く真夏の直射日光の下でも全く弱らず、次々と開花し続ける素晴らしい性質があります。

従来の「ユーギニアインパチエンス」は、熱帯とは言え涼しい高原地帯の原産で、トロピカルな外観とはうらはらに、夏の暑い日本ではどうしても弱ってしまい、今一つ真価を発揮できませんでした。そこで、全く新しい原種の血を取り入れ、暑さに強い「ユーギニアインパチエンス」として生まれ変わったのがサンパチエンスです。発売されてから6年ほど経ちますが、今や欧米でも大人気で、特に公共の花壇などで植え込みが多いようです。

## ◆最大の特徴は生長の早さ

最大の特徴はなんといってもその生長の早さで、花の咲いていない小さな苗からでも1カ月もしないうちにどんどん咲き始め、あつという間に大きくなっています。2カ月もすると、

一抱えほどの大株に育ち、無数の花を咲かせてくれます。他の花と比べて生長力の違いは驚くほどで、たとえば花壇に植栽する場合、株間50cmほどで植え付けるので、1mあたりわずか4株で事足りてしまいます。通常の花なら株間20cmとして1mあたり25株が必要になるのですが、6分の1程度の数で足りてしまうのです。苗代は高価ですが、そうして考えると、少ない数で花壇が作れるので、ずいぶんと苗代が節約できることになります。公共の場で利用が多いのは、実はこういったコスト面のメリットもあるからなのです。もちろんメンテナンスが楽なのも特徴のひとつで、花弁が厚く風雨にあっても傷みにくいので、花持ちがよいのがありがたいところです。

## ◆環境浄化植物として注目！

生長が早いということは炭酸ガスの吸収も速いということなのですが、同時にホルムアルデヒドや二酸化窒素の吸収も、他の植物に比べ数倍速いことが実験で証明されています。また、さらに葉からの水分の蒸散も速いため、周りの気温を下げる効果（打ち水効果）も証明されていて、様々な角度から環境浄化植物としても注目されています。

## ◆育てるポイントは肥料と水



サンパチエンスを育てるポイントは肥料と水。生長の早い分、それだけ肥料を要求するので元肥をしっかり混ぜ込んで植え付けるのがオススメです。また、インパチエンスの仲間共通の性質として水が大好き。特に暑い時期はものすごく水を要求するので、乾かないよう十分に与えることが重要です。大きくなるので、株間は地植えなら50cm、鉢植えなら30cm以上の鉢を使います。ただし鉢植えの場合、一気に大きな鉢に植えこまず、初めは20cm程度の鉢に植え付け、少し育ててから大きな鉢に植え付けた方がよいでしょう。特に5月の初め頃、まだ気温も低めで土の量が多い鉢に植えると、土の温度が上がりにくいため生長が遅くなりります。初めは小さめの鉢でスタートするのがよいでしょう。